

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第2回）  
欠席委員への意見聴取結果

< 林 一馬委員 >

【土地利用関係】

- ・ 県市がシンボル軸をどうしたいのか明確に示す必要がある。県市が先行して整備しなければシンボルとはならない。逆にまちなか軸は商業者の努力が必要である。
- ・ 県庁跡地、市役所跡地を有効活用しなければ、シンボル軸は空洞化してしまう恐れがある。

【拠点施設関係】

- ・ 第5章の「都市基盤施設の整備に向けた課題等の整理」に、県庁舎跡地の有効活用を確実に進めるべきことを記載すべきではないか。

< 渡邊 貴史委員 >

【都市整備目標関係】

- ・ 個々の計画によって実現する都市像（グランドデザイン）を示す必要はあるが、一連の計画の検討が終わった段階でもよい。
- ・ 交流人口を増やすことも必要だが、市民、県民の間でもあるので、交流人口の数値目標だけでなく、居住環境の向上による居住人口、昼間人口の目標値も示すべきである。
- ・ 中央エリアの拠点の名称である「交流と賑わいの拠点」の「交流」と「賑わい」は、意味が重複している。まちなかエリアとの棲み分けも図る必要があるため、例えば「風格ある賑わいの拠点」というのはどうか。

【歩行者動線関係】

- ・ 整備計画平面図における横の動線を設定した根拠がわからない。回遊資源の分布によるものか、さるくルートなのかなど根拠の説明が必要ではないか。
- ・ 既にある動線と新たに整備が必要な動線などがあるので、性格の違いがわかるよう色分けしてはどうか。

【土地利用関係】

- ・ 「シンボル軸」という名称は何をシンボルとしているのかわかりづらいので、物理的な位置関係を示す「中心軸」とした方がいいのではないか。
- ・ コインパーキング等の小規模駐車場の無秩序な発生は、回遊性を妨げる可能性があるため、地区レベルの交通計画の策定等による駐車場の適正な誘導が必要である。
- ・ 県庁舎跡地や市庁舎跡地など公共による比較的大規模な土地利用転換が想定されるので、太陽光などの自然エネルギーだけでなく、地域冷暖房システムの導入なども検討してはどうか。

【拠点施設関係】

- ・ 県庁舎跡地、市庁舎跡地など複数の拠点施設が機能的に競合しないよう、適正な役割分担に基づく施設整備が必要であり、課題としてそのような文言を追加してはどうか。

### 【生活環境関係】

- ・都心部に新築されたマンションに、郊外部から高齢者が転居している。一方、県庁舎移転に伴い事業所系を中心に空室等の増加が想定される。このような空室等を、転居してきた高齢者を対象とした福祉施設（高齢者デイサービス施設等）として活用することを検討してはどうか。
- ・施策項目に「老朽ビルの更新」とあるが、「老朽ビル」というと対象が古いイメージになるので、「建築物の多用途への転換」としてはどうか。
- ・町家を高齢者が集う場として活用してはどうか。

### 【手続き関係】

- ・多くの意見については、既に整備計画の中に反映されているので、各意見と整備計画の文言の整合性を明示することによって、説明責任を果たして欲しい。

### 【その他】

- ・施策項目の重要度に応じて序列化してはどうか。